

1 馬越峠入り口周辺にアジサイが植樹される

植栽や清掃活動などを行っているボランティアグループのア・ピース・オブ・コスモス（代表 中村レイさん）主催によるあじさいの植樹活動が2月23日（土）海山町の馬越峠入り口付近でありました。この活動は、国道42号を通るドライバーや熊野古道を訪れる人々にアジサイの花が咲いている美しい沿道景観でここに潤いを持ってもらうことを目指した『花を咲かそう夢街道21』の一環です。地域の中高生・ボランティア団体など45人が道の駅海山に集まり、アジサイを一本一本丁寧に植えていきました。植栽後は、グループによる地域の食べ物のもてなしもあり、今後の施肥、剪定、草刈清掃などを話し合いました。



（アジサイ植樹）

2 「NPO法人紀北くまの道」

川端 守さんを代表とする「紀北くまの道」は、2月27日にNPO法人の設立総会を行い、3月上旬にNPO法人の申請を行いました。この法人は、熊野古道の保存・保全及び古道を利用した地域住民活動の支援を行っていきます。順調にいけば6月上旬にはNPO法人として認められる予定です。こうしたことを目的とした法人は県内では初めてとなります。

「紀北くまの道」では、熊野古道の世界遺産登録に向けてさまざまな取り組みを予定しており、現在、会員を募っています。年会費は1,000円です。当協議会もこうした活動を行っている方々とともに、熊野古道の維持、情報発信、世界遺産登録への取り組みを行っていきたいと考えています。

入会等の申し込み先は、05972-3-3410 担当 中野まで

4 新しい旅の創造「遊歩百選」に熊野古道伊勢路を投票しよう！！

読売新聞大阪本社は、全国の市町村に「遊歩」の名所を求め、お国自慢の遊歩エリアの推薦を依頼したところ、588市町村と14団体から804エリアの推薦がありました。この中から「行ってみたい、歩いてみたい場所」を基準に200エリアを選びました。その中に「熊野古道伊勢路」が入っています。熊野古道は伊勢路だけではなく中辺路・小辺路等4ヶ所。三重県では熊野古道伊勢路を含めて4ヶ所が候補の中に入っています。

熊野古道伊勢路が「遊歩百選」に選ばれるように別紙応募用紙によりみんなで投票しましょう。

「世界遺産登録推進室」からのお知らせ

熊野古道世界遺産登録推進事業は、本年度も引き続き、奈良県、和歌山県の二県および関係9市町村と連携を図りながら早期登録を目指して事業を推進してまいります。平成14年度の県予算額は、37,985千円です。主な事業の内容としては、

世界遺産登録のためユネスコへ提出する「推薦書」を学術調査委員の指導を受け、三県合同で作成します。

歴史の道整備活用推進事業（継続）を国庫補助を受け実施します。

国史跡指定の範囲確定、国史跡指定申請書の作成、古道の地権者把握・同意、地積調査確認、保存管理計画・整備活用計画の策定、バッファゾーンの確定、古道周辺の環境を保全するための市町村条例の制定などを実施します。

古道を所有する地権者へ、同意を得るための説明会開催等を行います。

～ は、主として市町村業務であり、短期間にさまざまな行政行為を完璧に成し遂げる必要があります。このため、奈良県・和歌山県・文化庁と連携、調整を図り、市町村に対して補助、助言出来ることは積極的に支援していきます。地域の皆さまのご協力をよろしく願いいたします。

（三重県教育委員会事務局世界遺産登録推進室）

4 西国順禮碑・薬力大神碑確認

西国順禮碑

「西国順禮碑」が旧熊野街道から百数十メートルくらい入ったところで昨年1月に、海山郷土史研究会により確認されました。この際の報告書は以下のとおりです。

熊野古道探索調査の報告（実施日 2001年1月21日 参加者 植村・野田・山下・浜口・川口・家崎）

大正5年に完成した旧熊野街道尾鷲隧道の東口から、牛谷を遡ること百数十メートル、小さな谷川に沿った山道の左斜面に「西国順禮...」と深く彫りつけられた石碑が祀られていることを確認した。

この石碑は地元猟友会の方が発見したもので、向かって右側面には「寛延三庚午・・」、左側面には浅い彫りで別紙拓本のような上人名と4人の戒名らしい名前が刻まれている。寛延三年は1750年で、江戸時代中期後半の熊野街道に関する遺物であることは間違いない。

現在の「熊野古道」のルートからは300メートル程西に外れた位置にあるので、直接的には関わりは考えにくいですが、可能性として下記の3つのケースが考えられる。

一つは馬越峠付近にあった石碑が、山崩れや洪水によって牛谷を運ばれ、現在地で拾われて祀られた。

二つ目は現在地付近が「熊野古道（熊野街道）」の脇街道として使われており、ここで遭難した順礼の供養碑として建てられた。

三つ目は「熊野古道」以前の熊野街道が、便石山と天狗倉山の間の鞍部（現在の馬越峠より120メートルも低い）を越えるルートとしてあり、石碑のある辺りがそのルートに含まれていたというものである。

我々は拓本をとったあと、牛谷に沿って「熊野古道」や海山町境の尾根に至るルートを探してみたが、それらしいルートは発見できなかった。

伊藤良氏は、かつて次のような話を浜口さんにされたそうだ。北川の支流牛谷川を遡ると、金剛寺の全身光林寺の跡があり、その200メートル上流に「薬力大神（薬師如来）」を祀った碑がある。そこをさらに遡ると天狗倉山と便石山の一番低いところに出る。便山宝泉寺の過去帳に、この低い屋根を越えた巡礼の遭難があるから、尾鷲から海山へ行く一つのルートがあったのではないかと。

この話は三つ目の考えにつながるものであるが、宝泉寺には幕末の文化文政以後の記録しかないようで、この石碑に直接つながるものは見つかっていない。今後の調査研究を期待したい。



（西国順禮碑）

（海山郷土史研究会）

薬力大神碑

この報告書に登場する「薬力大神」碑についてですが、このたび協議会会長の吉田さんと、紀北県民局企画調整部で現地に確認に行きました。その結果、下の左の写真のとおり「薬力大神」碑が確認できました。場所は、西国順禮碑の一つ下の谷にありました。下の右の写真は「薬力大神」碑の近くにあった像です。これは現在調査中です。下の写真の碑又は像について何か知っている方がいましたら、教えてください。



（「薬力大神」碑）



（こちらの像の名前は不明です）

連載（第2回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

諸国旅人帳 玉置理兵衛（天保7年申7月より）

八木山（二）

（下ヶ紙）本文之内、同所又左門と申者、同人快気之為候へ共、巡拝致度願出
送り一札之事 候付、承知遣候、

三州設楽郡
御園村百姓

平助
年四十五才

一
右之者、御領分山上藤一郎様御支配所之者二御座候由之処、諸国巡拝二罷出、当正月二日奥熊野八木山坂二而発病致、前後步行難相成致難洪、漸坂中一ツ茶屋へ便りいたし候迄、同所ニテ養生薬用等為致候得共、急々快気之病症二も不申願、本人八勿論同所之者共々、申分出可相成儀二候八八、何卒急々宿送ヲ以国元江為帰被下候様、達而願出候付、往来一札相改、其段支配所江相達、当村送出し候間宿々一宿一飯御助情被成遣、送り届被下候様致度、奉頼入候、依而送り一札如件

紀伊殿御領分

奥熊野三木里浦庄屋

村山六次郎 印

同所 肝煎

伊藤彦左衛門 印

申正月十七日

紀州牟婁郡熊野三木里浦

三州設楽郡御園村迄

右 宿々村々

庄屋衆中

右人吟味候処、相違無之候、以上

奥熊野木本組

大庄屋代

北村市左衛門

印



寛永通宝が馬越・八鬼山で発見されました。

右の「送り一札」と併せ「往来一札」が、御園村名主 平八郎と宝光寺の出札し二通が記されている。

それによると、「弘化四年末十二月（一八四七、日付はない）に三州設楽郡御園村（現在の愛知県北設楽郡東栄町御園）を百姓平助と又左衛門は信頼により四国八十八ヶ所と西国三十三所へ巡拝したいと願い出てきたので出札した。」とある。

約一ヶ月かかったのでしょうか、八木山までやってきて、下り坂の途中、平助が発病し歩行困難になり前へも後へもどつすることもできなくなり困っているのを、一ツ茶屋（十五郎茶屋のことか）へ連絡してもらった。

そして薬をぬり、のみ、養生を半月程させてきたがなかなか治らない。本人はあきらめきれないようだったが、同所の者たちからもいわれて、やっと本人もその気になり、国元へ帰る宿送りの願いを出してきた。それで「往来一札」も相改め、御役所へも届けて、三木里浦から三州御園村までの庄屋衆と宿々の皆様に御助情くださるようにと「送り一札」を三木里浦の庄屋村山六郎次、肝煎 伊藤彦左衛門が出札している。更に、それを上の役所木本組大庄屋代北村市左衛門に伺いをたてて、初めて許可されている

その時、同道してきた又左衛門は元気で、本人は巡拝につづけて行きたいと願い出ているので承知したと別紙で「下げ紙」として附しているのである。

三州からやってきた平助、又左衛門の二人は三木里で分かれ、平助は八鬼山を越えて三州の御園の地元に向けて送られていき、又左衛門は三木峠羽後峠を越えて西国一番札所 青願渡寺に向けて一人旅となつていったであろう。



（ 諸国旅人帳表紙 ）



（ 諸国旅人帳 ）

新書判「熊野古道」の著者、小山靖憲先生の講演会報告（2月18日）

「出雲や丹後にも熊野というところがあり、熊野は「隈」で奥まったところを意味しています。また、参詣道は、紀伊半島に位置する高野山、熊野三山、それに吉野・大峯に通じる道で、3つとも「野」がついており、「野」は未開地を意味する語です。」と冒頭から「熊野信仰」の世界に引きずり込まれました。

これらの霊場を結ぶ参詣道（巡礼路）は、三県にまたがり、歴史的な古さ、保存性の点、多様性の点からも世界に見劣りしない日本一の歴史の道です。

スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路に続き、アジアにおける参詣道が世界遺産に登録される意義はとても大きいのです。

古都鎌倉の寺院・神社、彦根城、平泉の文化遺産、石見銀山遺跡とともに暫定リストに掲載されており、熊野古道が世界遺産に登録されるためには、どこに特徴を見出していくかが重要なポイントです。

コアゾーン（核心部地域）、バッファゾーン（緩衝地域＝両側50メートル）を設定し、周辺環境を保全するための条例整備が不可欠です。

熊野古道のうち伊勢路は、石畳が良好に残され、景観と一体となって日本固有の宗教形態のあり方を留めているこのような文化遺産は他には例がみられないと熱っぽくお話されました。

世界遺産には、「自然遺産」と「文化遺産」がありますが、ユネスコは近年、人間の営みと自然とがつくり上げた「文化的景観」を積極的に取り上げる方針を打ち出しています。

世界遺産として、AUTHENTICITY（真実性）、INTEGRITY（完全性）があり、文化遺産として登録されるには、人間が自然に働きかけてつくりだした景観であるという真実性が求められます。

ご講演の中で、信仰にも流行廃りがあり、熊野は、伊勢よりも信仰の歴史が古く、主に平安時代など中世に栄えた浄土で、現世の救いを求め盛んに参られた地でしたが、江戸時代以降、伊勢信仰などの台頭に押され古びていったということです。

著書にも書かれていますが、鎌倉時代に北伊勢の武士であった藤原実重の「作善（さぜん）日記」から当時の信仰の世界がうかがわれます。

熊野に30回参詣し、うち15回は現世安穩にして、熊野権現のご利生にあずかって無事を祈り、後半の15回は後生のためにお参りするとその日記に記されており、四日市市の南富田にある善教寺にある阿弥陀如来立像の胎内から発見されたというお話はとても興味がそそられました。

最後に先生が、熊野は、「死の国」という暗いイメージで捉える人もいますが、20年以上にわたって歩いて感じた印象は、暖かいうえに大変明るく快適な地ですと…。

「世俗のことを忘れ心身ともリフレッシュできるのが熊野古道」ではないかと思いを新たにするご講演でした。



（講演をする小山靖憲先生）

編集後記

最初は3ヶ月に1回出そうと思っていた協議会ニュースですが、第1号から早くも4ヶ月。ちょっと遅くなりましたが第2号がようやく完成しました。賛助会員のほうも前回第1号が出来た時に呼びかけたところ、随分と多くの新聞に取り上げられ、賛助会員も増えてまいりました。（現在82名です）まだまだ募集していますのでPRの方よろしくをお願いします。

最近、ツツラト峠を守る会ではホームページが作成されています。

URLは、<http://www.ztv.ne.jp/web/kumanokodo/>です。会の活動や最近のお勧め（5月は水蓮の花が咲きましたと宣伝していました。）ぜひ一度覗いてみてください。

次回は7月に発行予定です。

発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局

〒519-3695

尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内

電話 05972-3-3409

FAX 05972-3-2130

URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>